

ChatGPT による知財業務ハンドブック 1

～知財業務への実践的応用～

【復習課題のご案内】

本日ご紹介した ChatGPT の活用手法を、以下の題材を使ってぜひ復習してみてください。

ChatGPT との対話を通じて、発明の発想から明細書のドラフトまで一貫して試すことができます。

<復習用題材>

① アイデアブレスト（現状把握と課題発見）

「夏の外作業などで着用される冷風ジャケット」について、現在市販されている製品の課題を ChatGPT に洗い出させてみてください。

→どんな点が不便か？改良の余地があるか？を ChatGPT に尋ねながら整理していきます。

② アイデア構成の整理

上記で得られた改善点を踏まえて、新しい冷風ジャケットの構成を ChatGPT との対話で具体化してください。

→どんな装置構成、動作フローが必要か？技術要素を列举・整理します。

③ 社内・クライアント向けの説明文作成

整理された構成案をもとに、「新製品提案報告書」や「開発の稟議書」の形式で、ChatGPT に文案を作成させてみてください。

→対象読者（上司／社外クライアントなど）に応じた言い回し調整も含めて指示してみましよう。

④ 先行技術調査（検索式の設計と文献分析）

報告書に基づいて、ChatGPT に検索式を考えさせてください。

→会話を通じて IPC、キーワードを洗い出し、調査の方向性を絞ります。

→検索結果の要約や、既存特許との違いを ChatGPT に整理させてみてください。

⑤ 請求項・明細書ドラフト作成

調査結果を踏まえて、ChatGPT に請求項の第 1 案（構成をすべて含めた限定的な形式）を作成させます。

→そこから実施形態・課題・クレームの再整理へと展開し、明細書の初稿を作成してみましよう。

✦ 各プロセスで「どのように ChatGPT に聞くと効果的か？」を意識することが、活用レベルの向上につながります。

✦ 必要に応じて、セミナーで紹介したプロンプト例や出力例を参照して取り組んでみてください。

第 1 章：ChatGPT の活用レベルと入力スタイルの違い

本章では、ChatGPT の活用レベルを「初級」「中級」「上級」「超上級」に分類し、それぞれの特徴や注意点、主な用途について整理します。加えて、命令型と会話型というプロンプト入力スタイルの違いについても解説します。

■ 活用レベルの分類

【初級】

- ・ とりあえず ChatGPT を使ってみる段階。
- ・ 簡単な文書作成や要約依頼に利用。
- ・ 出力された内容をそのまま受け取ってしまう傾向がある。

【中級】

- ・ プロンプトの工夫により、より目的に合った出力を得られる段階。
- ・ 専門外の分野ではファクトチェックが難しく、そのまま使う場合が多い。

【上級】

- ・ ChatGPT を活用して構成を整理し、自分の専門知識で出力を検証・修正できる。
- ・ 調査や発明ブレストにおいて、視点を広げる補助ツールとして活用。

【超上級】

- ・ ChatGPT との対話を通じて高度な成果物（例：新たな発明の創作の効率化、新たな技術の取得、出願戦略、特許ポートフォリオ・・・）を共創。
- ・ 出力内容のファクトチェックも含め、完全に人間が判断主体となって、活用できる。

■ 命令型と会話型プロンプトの違い

【命令型プロンプト】

- ・ 明確な指示で一発出力を求める形式。
- ・ 例：「以下の要件に基づいて検索式を作成してください。」
###調査対象 生のリンゴを注文が入るたびに搾って販売する自動販売機。
###キーワード リンゴ、りんご、果実、生、搾りなどに類似するキーワードを使用
###IPC,FI G07F13/00」
- ・ 高速だが、文脈の理解は浅く、創造的な支援には不向き。

【会話型プロンプト】

- ・ 段階的に話しながらプロンプトを深めていく形式。
- ・ 例：「この技術分野で重要な要素は何ですか？」→「その中で特徴的な構成は？」→「ジュースの自動販売機に使用される IPC は？」→「果実を搾る装置に使用される IPC は？」→「キーワードだけで、検索式を作るとすると」 など。
- ・ 柔軟で思考を広げるのに適しているが、時間はかかる。

※発明ブレストから先行技術調査、クレームドラフト、明細書作成までを 1 つのチャットの中で完結させることが可能。文脈を蓄積していけるので、出願まで作り込める。

第 2 章：特許調査における検索式の構築法

本章では、ChatGPT を活用して特許調査の検索式を構築する方法について解説します。命令型プロンプトで一気に検索式を生成する方法と、会話を重ねて構成要素を育てながら検索式を作る「会話型プロンプト」の違いを、ジュースの自販機を題材に比較しながら紹介します。

■題材：リンゴをその場で絞って提供するジュース自販機

冷蔵された生のリンゴを保持し、注文後に自動で搾汁してカップに注ぐジュース自販機の発明を想定。

■命令型プロンプトの例

「生リンゴを冷蔵保管し、注文後に自動でジュースを絞って提供する自販機」の特許調査をしたいです。関連する IPC を挙げたうえで、AND/OR を用いた日本語検索式を作成してください。

想定される出力：

IPC：A23N1/002（果汁製造装置）、G07F9/00（自動販売装置）

検索式：

（リンゴ OR 果物） AND （ジュース OR 搾汁） AND （自動販売 OR ディスペンサー）
AND （冷蔵 OR 冷却）

※ChatGPT に、近接検索のルールを例示してあげれば、近接検索の検索式も作らせることができます。デフォルトでは、ChatGPT は、近接検索の検索式を挙げてこない可能性が高いです。

→各データベースのマニュアルのその部分を、ChatGPT に入力しても理解してくれる可能性があります。

■プロンプト分類

（1）ゼロショットプロンプト（Zero-shot）

プロンプト：あなたは熟練の特許調査員です。以下の発明について、出願前の先行技術調査のために検索式を立案してください。

【発明概要】

生リンゴを冷蔵保存し、自動で搾汁して提供する自動販売機

（2）ワンショットプロンプト（One-shot）

プロンプト：あなたは熟練の特許調査員です。以下の発明について、出願前の先行技術調査のために検索式を立案してください。

【例】

発明：衣服に装着する空調ファン装置

→ 検索式：（衣服 AND ファン） AND （電源 OR バッテリ）

【対象発明】

生リンゴを冷蔵保存し、自動で搾って提供する自動販売機

→ 同様に検索式を作成してください。

(3) フューショットプロンプト (Few-shot)

プロンプト：あなたは熟練の特許調査員です。以下の発明について、出願前の先行技術調査のために検索式を立案してください。

【例 1】

発明：衣服に装着する空調ファン

→ 要素：衣服、ファン、バッテリー

→ 検索式：（衣服 AND ファン） AND （電源 OR バッテリ）

【例 2】

発明：スマート施錠装置

→ 要素：電子錠、スマホ、通信

→ 検索式：（電子錠 AND スマートフォン） AND （Bluetooth OR 無線）

【本件】

発明：リンゴを冷蔵・搾汁・提供する自販機

→ 同様に出力してください。

(4) チェーン・オブ・ソートプロンプト (CoT)

プロンプト：あなたは熟練の特許調査員です。以下の発明について、検索式を立案するステップを論理的に説明しながら出力してください。

【発明】 生リンゴを冷蔵し、搾って提供する自販機

■会話型プロンプトの例

ユーザ：「果物をその場でジュースにして提供する自販機って、どんな技術分類になりますか？」

ChatGPT：「A23N（食品加工機器）、G07F（自販装置）などが考えられます」

ユーザー：「リンゴを冷蔵し、注文後に搾るという構成の場合、どんな構成要素がありますか？」

ChatGPT：「食品加工（搾汁）、冷蔵保存、注文検知、制御回路、自販ユニット、容器取り出し機構など」

最終的に得られた検索式：

(リンゴ OR 果物) AND (ジュース OR 搾汁 OR 压榨) AND (冷蔵 OR 冷却) AND (自動販売 OR 提供 OR ディスペンス)

■比較と活用のポイント

- ・ 命令型は一発で検索式が得られるが、視点が固定化されやすい
- ・ 会話型は構成要素を掘り下げながら文脈に合ったキーワードを導き出せる
- ・ 発明の全体像が定まっていないときや、視点を深めたいときは会話型が有効
- ・ 検索式が出力されたあとでも、ChatGPT に「この式に足りない視点は？」と問うことで補完できる

⇒あとで、明細書の作成やプレゼン資料の作成などを行うときにも、この会話内容が参照されることになるので、ChatGPT と会話しながら、検索式を決めていく、調査結果を要約させていくという作業をした方が、ChatGPT を利用した全体の知財業務のクオリティがアップする可能性があります。

第 3 章：文献抽出・関連文献の把握とレポート生成

本章では、ChatGPT を用いて特許調査結果から関連性の高い文献を抽出・整理し、調査レポートを作成するまでの活用法を解説します。検索で得られた多数の文献の中から、調査対象技術との関連性の高い文献を効率的に選別するプロセスを、ChatGPT と協働して行う手法に焦点を当てます。

※特許調査では、この作業が、ChatGPT の性能を最大限に活用できる可能性あり。

■調査結果の入力とフィルタリング

- ・ 検索でヒットした文献が数十件に及ぶ場合、ChatGPT に「要約＋クレーム」を 10 件ずつ読み込ませるのが現実的。∴入力できるトークン数、出力するトークン数に限りがある。
- ・ プロンプト例：「以下の 10 件の特許文献について、技術的類似度が高いものを上位 3 つ選び、その理由を説明してください。」
- ・ ChatGPT はクレーム要素や目的構成などの比較を行い、関連度の高い文献を抽出可能。
- ・ 完全な自動判断に頼らず、上位候補を人間が目視確認する運用が有効。

■文献間の技術的差異の整理

- ・ 関連度の高い文献を抽出後、対象発明との構成比較や技術的差異の要点を ChatGPT に整理させる。
- ・ プロンプト例：「この特許（JPXXXXXX）と対象発明の技術的構成の違いを 3 点挙げてください。」
- ・ 明細書中の表現の違い、目的・効果の相違点なども抽出できる。

■調査レポートの自動生成支援

- ・ 関連文献が整理されたら、ChatGPT に要約・構造を含めた調査レポートのたたき台を生成させる。
- ・ プロンプト例：「以下の 3 件の関連特許について、対象発明との比較を含めた調査レポートを作成してください。」
- ・ レポートの構成要素：①文献概要 ②構成の要点 ③対象発明との違い ④図表形式（任意）
- ・ ChatGPT は構成テンプレートに従い、初稿を自動でまとめる支援が可能。

■活用上の注意点

- ・ ChatGPT の出力は、要点整理や比較に優れている一方で、正確性や網羅性には限界がある。
- ・ 技術的な用語解釈や業界特有の構成には曖昧さが残ることもあるため、最終的な判断・記述は人間が行う必要がある。
- ・ 出力結果のうち「どの表現を使うか／修正するか」は、弁理士や調査者の判断が不可欠である。

第 4 章：アイデア構築からクレーム・明細書へ

本章では、ChatGPT を活用して発明のアイデアを構築し、請求項および明細書へと発展させていく実務的な流れを解説します。アイデアの構成整理から、クレームドラフト、明細書ドラフト、実施形態の展開、クレームの再調整まで、弁理士が日常的に行っている作業を ChatGPT がどのように補助できるかを具体的に示します。

※知財業務の中では、この作業が、ChatGPT の性能を最大限に活用できる可能性あり。

■アイデア整理（ChatGPT 活用）

- ・発明者ヒアリングや構想メモをもとに、ChatGPT との対話でアイデアの構成や動作を言語化。
- ・例：「この装置はどんな順序で動作するか？」→「どの部分が特徴か？」→「それは従来技術と比べてどう異なるか？」

■請求項の第 1 ドラフト作成

- ・ChatGPT に「以下の構成要素をすべて含んだ請求項のたたき台を作ってください」と指示。
- ・この時点では構成を広げず、限定的にすべて盛り込んだ形をまず作る。
- ・出力された構成を見て、過不足のチェックを行う。

■明細書ドラフトの作成

- ・従来技術：先行文献を与えて、要約＋対比まで ChatGPT に作成させる。
- ・課題のドラフト：構成の何が不便か／何を改善するかを対話で詰めて生成。
- ・ChatGPT が「従来技術と異なる点」に注目して課題をまとめやすい。

■実施形態の段階的生成

- ・一度に生成するのではなく、構造ごとに段階的に出力させる。
- ・ステップ 1：全体構成のリスト化
- ・ステップ 2：各構造の機能説明（例：冷蔵ユニット、搾汁機構）
- ・ステップ 3：動作の流れ・各構成の相互関係
- ・この過程で ChatGPT に新たなバリエーションや実施例を考えさせることも可能

■請求項の再調整（第 2 ドラフト）

- ・一通り明細書が仕上がった段階で、請求項を見直す。
- ・不要な構成要素は削除、共通する要素は上位概念化。
- ・出願戦略に応じて請求項 1 の幅を広げる。

■ChatGPT 活用のメリットと限界

- ・ChatGPT は構成整理・用語統一・流れの整合性確認に有用。
- ・一方で、特許法上の新規性・進歩性の視点や、将来的な審査・訴訟を見据えた請求項

設計は人間の判断が不可欠。

- ・自らのスタイルや自社のスタイルに無理矢理 ChatGPT を合わせようと努力することは無駄な作業。もし、自らのこだわりがあるのであれば、そのこだわりが本当に正しいのか客観的に見つめ直す必要あり。典型的な例が、翻訳しやすい日本語にこだわり過ぎている点である。AI 時代の翻訳で、弁理士が翻訳しやすい日本語としてこだわっていることが、日本語として自然な理解しやすい日本語であるかどうかは、よく見つめ直す必要がある。
- ・特許実務と AI の協働による「構想の言語化支援」として非常に効果的。

第 5 章：活用上の注意点とリスク管理

本章では、ChatGPT を知財業務に活用する際に意識すべき情報管理上のリスクや設定上の注意点について解説します。特に、発明内容や社外非公開情報を取り扱う場面でのセキュリティ、履歴管理、プライバシーポリシーの理解が重要となります。

■入力情報の扱い：何を入力してよくて、何を避けるべきか

- ・出願を予定している発明の内容は、具体的に ChatGPT に入力して問題ない（ただし後述の設定が前提）。
- ・ただし、万一不正アクセスがあった場合を考慮して、個人名、会社名、顧客名、製品名など、ユーザや関係者が特定されうる情報は入力しない、もしくは抽象化しておく方がよい。
- ・ChatGPT は、アイデアの構成や動作を言語化するには非常に有効だが、特定情報の管理はユーザ責任となる。

■オプトアウト設定の重要性

- ・ChatGPT を Web ブラウザで使用する場合、「設定」－「データコントロール」－「すべての人のためにモデルを改善する」を「オフ」（オプトアウト）にしておくことが必須。
- ・これにより、ユーザのチャット内容が OpenAI の学習に使われないように設定できる。
- ・オプトアウトしていても、チャット履歴はブラウザ上に残るため、以下の履歴管理が併せて重要となる。

■履歴管理と不正アクセス対策

- ・OpenAI はチャット履歴を公開することはないが、ユーザのアカウントに不正アクセスが発生した場合、履歴が閲覧・漏洩する可能性がある。
- ・そのため、重要なチャットはエクスポート機能でダウンロードして保存し、履歴からは削除する運用が望ましい。
- ・多要素認証など、アカウントの安全性確保も必要。

■ファクトチェックと人間による検証

- ・ChatGPT の出力は、文章として整っていても、事実性や正確性を保証するものではない。
- ・特に専門分野の調査や発明構成の検討では、出力された内容を人間が必ず検証する必要がある。
- ・出力に頼り切らず、内容の妥当性・新規性・公知例・非侵害性との関係をユーザ自身が評価する姿勢が重要。

■全体としての心得

- ・ChatGPT は、情報を整理し、言語化する強力な補助ツールである。
- ・一方で、法的判断・出願戦略・機密管理といった知財実務の核心部分は、あくまで人

間の判断が必要。

- ・ AI と弁理士の協働によって知財業務の質と効率を高める、という視点が大切である。

- AI は道具じゃないんだよ ともに考える相棒なんだよ
- まちがえてもいいんだよ AI も人間もそういうもんだから
- ChatGPT は 知ってることを教えるんじゃない いっしょに考えるんだよ
- 「聞く」のではなく 「かたる」ことが大事なんだよ AI と話すってのは
- AI に聞いたって うまくいかないときがある それでも もう一度聞いてみるんだよ
- AI をこわがるより 使えないままにいる自分を ふりかえってごらん
- 知識は借りもの でも問いはあんた自身のもんだよ
- めんどくなるときに ChatGPT を開いてごらん ちょっとだけ見えるもんが変わるから
- AI は「しってる人」じゃないんだ 「いっしょに考える人」なんだよ
- すぐ答えが出なくても 対話してるうちに なんとかなる それが AI とのつきあい方
- 正しい答えより たしかな問いを持ちなさい AI はそこから動き出すから
- しごとをこなすより いっしょに悩むほうが 発明に近づけるよ
- 弁理士がほんきで向き合えば AI もほんきでこたえるよ
- つかいこなす、より つきあいこなす それが ChatGPT との関係だよ

第 6 章：その他の知財業務への応用

本章では、ChatGPT を特許調査や明細書作成だけでなく、知財業務全体に広く活用するための具体例を紹介します。実際の実務の中で、「この作業にも使える」と実感された活用場面を中心に整理しています。

■稟議書・社内文書の作成支援

- ・特許出願にあたっての社内稟議書、上申書のドラフト作成。
- ・目的、効果、出願理由、予算理由など、構成項目を与えて文書化可能。
- ・社内向けの説明資料の平易な文章化にも有用。

■上層部向けプレゼン資料の骨子作成

- ・発明の重要性、事業との関係、競合対策としての意義を伝えるプレゼン資料の構成支援。
- ・スライド構成（目次レベル）や要点整理のたたき台として活用可能。
- ・「専門用語を使わずに経営者に説明する」などトーン調整もできる。

■社内共有・報告メールの草案作成

- ・出願方針や調査結果、検討中の発明について、上司や発明者、営業部門向けに共有する文面の作成支援。
- ・構成や語尾表現を指定して、柔らかく・簡潔に伝える文体の調整も可能。

■秘密保持契約（NDA）やライセンス契約の初稿作成

- ・試作委託・共同研究・技術説明の前段階に必要な NDA を、要点ベースで生成可能。
- ・契約書の構成要素（対象、守秘義務、期間、例外事項など）を与えることでドラフトを作成。
- ・特許ライセンス契約、商標使用契約などのベース作成も対応可能。

■ネーミング・コンセプト案出しの壁打ち

- ・新技術・新製品のブランドネーミング候補を出す場面で、「意味」「語感」「商標調査前の候補出し」に有効。
- ・ChatGPT との対話で、命名のコンセプトや方向性を整理することができる。

■活用の心得：ChatGPT を“外部ブレイン”と捉える

- ・ChatGPT は人間の判断や戦略を代替するのではなく、情報を整理し、文書化し、思考の幅を広げるためのパートナー。
- ・知財業務全体を支える「外部の知的補助装置」として活用すれば、日常業務の生産性と創造性が高まる。